

## 町長と未来について語ろう会②会議録

### 開催日

---

開催日時 令和6年8月5日(月) 19:00から20:30

場 所 ほなみふれあいセンター 1階 軽運動室

### 次第

---

#### 1. 開会

#### 2. 町長あいさつ

皆様こんばんは。夜分にお集まりいただきありがとうございます。年1回になるが、今年も4地区で色々お話しただければと思い、企画した。色々な意見飛び交ったらいいと思う。

#### 3. 町出席者紹介

#### 4. 意見交換

**町長** 始めに、1年間の取り組みとして、役場の組織改革を大幅に行い、役場機能を向上させた。企画係を独立させ未来創造課とし、子ども関連業務は教育委員会に集約し、窓口を一本化。働き方改革の環境で職員の服装自由化など内部改革も行っている。道の駅の運営会社だった開発公社を定款変更し、まちづくり観光局として設立、観光関連業務を一本化。町全体をPRするために新たなロゴを作成し、一体的なプロモーション活動を行い国内外から観光客を誘致できる仕掛けを作っている。また、地域活性化企業人や地域おこし協力隊を増やし、外部の知恵も活用している。観光に関してはPR予算を削減し、ロマン美術館や湯田中駅周辺の整備など受け入れ環境整備を進めている。農業分野では、ブランド農業の振興やスマート農業機械の導入支援などを行い、高齢化が進む農家をサポート。教育では、ALT(外国語指導助手)を2人から5人に増やし、各小中学校に配置した。姉妹都市を増やす過程で国際交流も推進していきたい。ゼロカーボン・環境対策としては、昨年「ゼロカーボンシティ宣言」をして、町の公用車の見直しなどCO2削減に向けた施策を推進している。

続いて課題として、人口減少・少子高齢化、産業の偏りがある。孫たちが帰ってきたくなくなる魅力のある町にするために、良い循環を生みたい。町に賑わいがあり、住みたい人が増えて人口が増え、町も財源ができて新しい手を打ち、それがまた賑わいを生むという好循環が今は逆転している。賑わいがなく、財源もないから何もできず、人が減り賑わいなくなる悪循環を1回止め、様々な仕掛けをする必要がある。施設・インフラの老朽化や公共交通の維持、学校統合の課題もあり、子育て施設のサービスは不足していて、中野市の方が良く見える部分がある。移住者を増やしたくても住宅や気軽に住める賃貸がなく、町には歩いていける子どもの公園もない。一方で空き家が増え、高齢化率は高く、土地の価格は下がっている。「消滅可能性自治体」に山ノ内町も入っているが、これを変えるためには町民のQOL(クオリティオブライフ)を上げ、ここに住んでよかったと思ってもらいたい。女性が住みやすく、外国人と共生できる。観光で来る他にも様々な形で関係を持つ、山ノ内町のファンを増やすことで新しい人が入って新しい物事が起きる。産業の偏りも課題だが、経済がないところに若い人は帰ってこない。町民サービス・教育を充実させ、子育て環境を充実させ、経済活性化した魅力ある町として認識される町を作る。学校統合で求めているのは、良い循環に入れるための魅力的な教育内容と環境。横並びで他の自治体と同じ教育を展開しても生き残れない。本質は場所や建物の新しさではなく、中身であり、この学校があるからここに住みたいと思われる内容にしたい。統廃合後に

出る空き校舎の活用アイデアとしては、6次産業の工場や、子育て支援施設、商業施設、スポーツ施設など、一軒郊外にあるだけでも人の流れは変わるので、魅力あるものを誘致したい。スポーツでは、今年準備委員会を経て山ノ内スポーツクラブが立ち上がった。部活動の地域移行は国の方針であり、地域としての受け皿であり、かつ町民の健康増進の支援もできる、誰もがスポーツに親しめるクラブに育てたい。余談だが、県も含めて観光税、宿泊税の検討に入っている。観光客から一律何%か徴収する税だが、県が導入予定で、山ノ内といくつかの自治体が検討している。そうして得た税収を観光関連インフラ等の整備に回していきたい。今後導入に向けた議論を進め、こういう形で財源を確保しつつ観光関連インフラ整備や維持をしたい。基幹産業である観光と農業をしっかりと後押しして力を入れたい。経済の活性化から魅力のある町にして、人口を増やす努力をすべき。令和5年度は社会人口がプラスに転じた。山ノ内町はそれだけのポテンシャルはある。自然豊かで温泉、志賀高原、由緒あるスキー場、素晴らしい果実があり、世界的に有名なスノーモンキーもいる、資源が豊富な町。産業と農業を両軸に活性化したい。

**参加者** 人口の社会増の内訳はどのようなになっているか。

**町長** 内訳までは出していない。転出は進学・仕事などの関係と思われ、転入は結構様々で外国人も目に見えて増えている。純粹にプラスというよりは、多分百何十人減って百何十人増えた、という差では。

**参加者** 外国人が多いとのことだが、日本人の移住の状況は。

**町長** 日本人の移住も増えている。未来創造課の移住交流係が相談を受けており、移住候補地として来られる方が多く、町を案内するツアーには専任のスタッフが高頻度で対応している。様々な例があるかと思うがあまり個別に深追いはしていない。

**参加者** 移住者の増加に伴い、住宅が課題となる。空き家は多いが仏壇があるなどの理由で賃貸や売買に出せない話もよく聞く。町には老朽化してほとんど使っていない教員住宅が多いが、活用はどう考えているか。

**町長** 放置されている長屋や一軒家の教員住宅は、貸出の他に町の利活用も考えたい。物件は点在しそれぞれ老朽化度合いも違うため、物によっては壊して別の用途にするなど活用方法を整理している。中学校の物件は、教育委員会が子どもたちの第3の居場所として活用を議論していると聞いている。

**参加者** 町営住宅の建設は計画しているか。

**町長** 町が2LDKや3LDKで適正価格の集合住宅を作ることも考えている。一般的に公営住宅には低所得者向けとそれなりのお金がかかるものがあり、前者は自治体、後者は民間の仕事になりがち。空き家は改装に多額の費用がかかるし、賃貸もほとんどなく、豪雪地帯での戸建住まいは雪かきなど未知の課題も多いため移住希望者にはハードルが高い。単なるアパートではなく、空間含め「住んでみたい」と思える集合住宅を民間と連携して作りたい。

**参加者** 学校に英語の先生が1人ずつ配置され、留学費用の補助もできて、町もすごく変わったと感じている。私は小学生の子どもがおり、様々な経験をさせたいと思う。長野市や中野市、飯綱町まで行くプログラミングの教室や泊まりの体験がある。町内でもスポーツ以外に、文化的な活動もできるとありがたい。また、人口が少なくても安心して安全な町づくりを進めてほしい。

**町長** ALT（外国語指導助手）は少し強引に増やして、学校の活用状況を見つつ進めている。各校1人としたのが良いとの報告もある。留学費用の補助については、現在の円安で留学は非常に難しいことから、山ノ内から世界に出たい意欲のある子どもたちを町として支援するために制度を設けた。プログラミング教室などの教室は、民間企業と連携して、塾のような形で町内で実施する方法を模索している。

**参加者** 2年ほど前に移住。地域に部活動移行が進む中、スポーツ以外に文化系の地域活動の対応は。また、南小もそろそろ複式学級（複数の学年で1つの学級）になる可能性があると聞いた。統合が難しい中で、イベントだけでも町内の学校が合同で行うことは検討されているか。

**町長** 文化系部活動の地域移行について、現在中学校は卓球、吹奏楽、美術の3つの行き先が課題。スポーツクラブが受け皿になってほしいと話してはいるが、スポーツ教室の運営で部活に対応できる運営体制の整備が1~2年のうちに必要な状況。学校は、南小は移住者の増加で横ばい状態だが、複式学級への不安がある方もそうでない方もいる。とはいえ運動会や音楽祭の実施が難しいので、統合する方向で進めている。実は昨年、運動会や音楽会を3校合同で行ってはと提案したが、学校ごとのカリキュラムや運営方法があり難いようだった。単純に少人数だから統合するという議論でもなく、行事の合同実施も難しい事情もある。町として教育がどうあるべきか教育委員会でしっかりと議論してもらいたい。

**教育長** 文化系の部活動は、指導者を探しつつ地域の受け皿を作る準備をしている。令和8年までに週末活動の移行が求められているが、平日含めて全ての部活動の地域移行を最終目標として進めている。統合は、3小学校それぞれの地域性を生かしつつ、教育の質を向上させたい。3校合同での活動もESD<sup>1</sup>発表会や、小澤コンサートなどを行っている。統合に向けた準備として3校間の交流を深めたいという先生方の思いをベースに、さらなる学びや活動が増えると期待している。先日中学校の「夢見るまちづくり討論会」で出た「町民全体の文化祭をやりたい」という提案のような、統合だけでなく、地域の繋がりを活かして子どもたち中心のアイデアがどんどん出てくることを期待し、教育委員会としても応援したい。

**参加者** 未就学児が行ける距離や、自転車に乗れる公園がないことが気になっている。今後何かプランはあるか。それから図書館について、現状の図書館の規模を拡大するような計画はあるか。

---

<sup>1</sup> ESD 持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）。学習を通じて気候変動や生物多様性喪失、資源の枯渇など人類の開発活動に起因する様々な問題を自らの課題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、問題解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす持続可能な社会を実現することを目指す。

**町長** 公園整備は進めたい。区所有の空き地や公園も、町と区が共同で整備することなども検討中。やまびこ広場も人工芝の老朽化や、日よけがないなど改善点があるが、予算の課題があるため順序立てて進めたい。図書館は、他自治体の活用事例としてはカフェを併設し、民間委託する方法もある。知恵と工夫でパワーアップさせたい。町としては、選択と集中で必要な施設にしっかりお金をかけ、スタートアップ向けのハブ施設のようなものも含めて検討したい。先ほどの話で、美唄市の「PITAAAN！（ピターン）」という子ども向けデジタル教室は、国交付金をうまく活用し最新の設備を導入している。他にも団地を平屋と商業施設と公園という複合エリアにした事例や、賃貸に20年住んだら土地と建物を譲渡する制度など、移住者を増やしている自治体の良い事例を参考にして、町にできることを考えている。

**参加者** 2人の子どもと移住。夫は単身赴任。子は以前不登校だったが、今では楽しく通えている様子も見られ、親にとってこんなに嬉しいことはない。町長は学校の場所はどこでもいいと仰ったが、場所は大事。静かな環境、余裕のある空間、先生のサポートも素晴らしい。不登校児が学校に行ける環境が山ノ内は整っており、全国にアピールできる。父は仕事があり移住できなくても母子で来ることもでき、仕事は農家の繁忙期に短時間のお手伝いもできる。給食費の半額補助、学童保育料の安さもありがたい。学童は例えば値上げして習い事付きにしたら、アピールポイントになる。山ノ内町では当然のことも、転勤族から見ると魅力を感じる点が多い。HPなどではそういう情報は見つけれなかったもので、もっとアピールしては。

**町長** お子さんが学校に行けるようになり本当に良かったと思う。町にも不登校の子はいるので、学校でも家でもない居場所づくりを町もサポートしつつ、通いたくなる学校づくりも大事。場所がどこでもいいというのは、統合小学校の場所を決める議論が、東西南北のバランスを取るために中学校敷地だと最初に言われたため。そうではなくビジネスの場である観光動線と、安心安全な生活動線を分け、住みやすい空間づくりが必要だと思う。町の活性化のためにはシングルマザーが住みやすい環境を整えたい。親一人で子を育てやすければ、二人でもきっと育てやすい。学童も近い将来習い事付きを取り入れ、預け先という意味で働く親のニーズも賄いたい。子育て支援の情報はわかりやすくなるように、一覧表を作成している。

**教育長** お子さんは山ノ内の環境がぴったり合ったようで嬉しく思う。その子によってどういう環境がいいのかは、決して一律ではない。我々が大事にしたいのは、人数が少なくても多くても、全ての子どもたちが安心できる、その子が学びたいことを学びたいように学べる環境を保証すること。山ノ内町は3小学校それぞれに特徴があるといった意味では選択肢がある。学校だけが子どもにとって学びの場の全てではない中で、学校以外なら安心して学べるということであれば、その環境づくりに努めたい。

**町長** 補足だが、町が人口減少に直面する中で、コンパクトシティという国の方針に伴い施設を集約し、運営コストを下げ、役場職員は少人数で住民サービスを維持する時代が来る。住民サービスを充実させつつ、リソースを集約することを考えたとき、選択と集中で観光、住宅、文教とエリアをわけて力を入れるべきだと考えている。具体的には、湯田中洪温泉を観光エリアとして重点的に力を入れ、夜間瀬駅周辺を文教エリアとして整備していきたい。学校などの教育面でも適切に力を入れたい。

**参加者** 東部は観光、西部は住宅というようなことを仰ったが、南部と北部は。

**町長** 決して南部を軽視しているわけではなく、これから新しいものを作るときには、経済合理性を重視し、廃校などの建物をしっかりと活用して、安全にその中心の活性化を目指したい。

**参加者** 農業の活性化に言及されていたので、農家の多い南部に対するビジョンを示していただきたい。町内には、高齢化あるいは移転して空き家とともに残された耕作放棄地が結構あるのではないか。空き家は先ほどから出てきているが、耕作放棄地についてはどのような見通しを持っているか。

**町長** 耕作放棄地の問題は、一つの解決策として農業法人を作り、若い人を集めて新しいニーズを作り出すのが必要かと思う。特に北部は多いと思うが、山に近く行きにくい農地が放棄されていく事態がある。そういうところに農業法人を入れ事業継承する。後継者不足はしっかり町として取り組みたい。

**参加者** 農業は町の大事な活性化のポイントだが、人不足、高齢化、耕作放棄地と問題は山積。周りは高齢化で辞めていき、農地を任された人もやり切れない状況が散見される。問題を着実に解消しなければ農業の未来はない。先ほどの法人化も含め、10年先20年先を見据えて手を打ってもらいたい。

**町長** 町でもマッチボックス<sup>2</sup>やおてつたび<sup>3</sup>という仕組みの導入、都会から働き手を確保するような派遣業務を観光局で行う体制作り、また特定技能実習生を東南アジアから確保できる体制作りなど、いくつかの手法で人手不足の解消を目論んでいる。とはいえ人口が減るのは日本全体の問題で、どこかしらは負担は来る。スマート農業の導入などで効率良く質の高い生産体制作りも必要。

**参加者** 手を打っていただいているが、インターネットやアプリの活用が困難な、高齢の農家に即した対応をお願いしたい。それから東西南北それぞれが、明治時代から続く小中学校を、地域を愛している。これは地域エゴではなく地域愛。その愛している人たちの地域をもっと大事に慎重に捉え、施策を進めていただきたい。

**町長** 地域愛だということは私も認識はしている。ただ冷たい言い方になるが、次の世代の若い人がどういう形でこの町で育ちたいと思うかを重視したい。歴史から学ぶべきものはたくさんあるが、歴史とともに沈む気はない。次の世代を見据えつつ地域の皆様が納得できるような形を模索したい。

## 5. 閉会 (20:30)

---

<sup>2</sup> マッチボックス 自治体公式の求人情報サイト。地域内外の働き手が1日単位や短時間勤務など、柔軟に就労できる環境を整備する。町は令和6年8月1日に「山ノ内町マッチボックス」を開設。

<sup>3</sup> おてつたび 「お手伝い(仕事)」と「旅」を掛け合わせた造語で、宿泊業や一次産業をはじめ、短期的・季節的な人手不足で困っている事業者と、地域や観光業に興味がある人を短期アルバイトとしてマッチングするサービス。